

議会報告・活動報告

筑西市議会議員 経済土木委員長

みさわ 隆一

筑西！
愛しています！

日頃より私の活動に対し、ご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。
まずは、1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」により亡くなられた皆様にお悔やみを申し上げますとともに、被災されたすべての皆さまにお見舞いを申し上げます。
被災地域の日も早い復旧、復興を心よりお祈りいたします。

皆さまのご支援・ご協力をいただき、早いもので、みさわ隆一は議員生活3期9年目に入り活動させていただいております。今回はvol.10として、議会報告・活動報告を作成いたしましたので皆さまにご報告させていただきます。
現在、筑西市では高齢化率(65歳以上)が33%を超える超高齢化社会であり、さらに少子化・人口減少が同時に進む中で、誰もがこれまでの「当たり前」の普通の生活」を維持できるのか？今これが私の重要な政治テーマであり、その課題解決に向け何をなすべきか？自問自答し悩みながら活動を続ける毎日です。

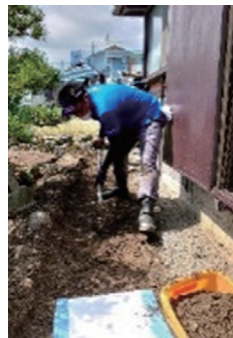
令和5年11月 富山県 富山市・射水市 「地域公共交通政策」 視察研修

地域の公共路線バスおよび、デマンドタクシーは全国的に高齢化が進む今、益々公共交通の需要が高まっております。すぐにでも手を打たなければ交通弱者の生活の足の確保ができず、心身の健康にまで影響が及びます。
今回の研修をもとに、今一度早急な見直しと新技術を生かした新たな仕組みづくりを進めると同時に、地域格差の解消にも努めてまいります。



令和5年9月 日立市、高萩市 台風13号 災害ボランティア活動

台風13号に伴う豪雨により河川が氾濫した日立市・高萩市において、泥出しと片付けのボランティア活動を行いました。
「地球沸騰化」の時代。今や自然災害はいつどこで起きても不思議ではなく、温暖化からくる風水害は全国各地で頻発化、激甚化しています。私もこれまで全国被災地での活動を通して、風水害や地震など自然災害における防災インフラ整備・防災備蓄、企業や自治体との災害協定など、自治体独自の災害対策をさらに進めるべきと考えます。



令和5年11月 千葉県 いすみ市 有機農業・オーガニック学校給食 視察研修

全国初の100%「オーガニック学校給食」を実現し話題となった千葉県いすみ市に研修に伺いました。
構想から10年間の有機稲作への取り組みは苦労の連続でしたが、市長と担当職員さんの英断に加え、峰谷村の全22戸すべての農家の皆さんの無農薬米作りへのゆるぎない生産意欲により、現在市内の全児童・生徒に42トンもの無農薬米を提供しています。新規就農者も巻き込んだ有機野菜の給食提供もスタートし、さらに市外への販路拡大にも取り組んでおり、非常に学びの多い研修でありました。



県西フードパントリー 食品ロス解消と困窮世帯救済を！

今年で3年目をむかえます「県西フードパントリー」は、現在メンバーも増えて少しずつ支援の輪も広がり、個人や企業、各種団体など多くの皆様から食料品・日用品・衣類などをご提供いただいております。また広沢商事(株)様より倉庫のご提供、筑西市及び社会福祉協議会からはフードドライブの実施や利用者への広報支援など、これまでの懸念材料も改善に向かっていきます。
生活困窮世帯への支援とフードロス対策の観点からも、この事業をさらに拡大させる必要があります。



こども食堂「有りの実」 市内各地での 新たな子ども食堂の立ち上げを支援！

今年で8年目をむかえます「こども食堂 有りの実」は各方面から認知され、利用者数も安定しております。更には研修依頼や運営への協力要請にも対応することで、今では市内各地に第2、第3の地域食堂が誕生しております。
子ども達から高齢者まで、孤食を防ぎ、地域コミュニティの場を提供する為にも、今後も支援を継続してまいります。



令和5年10月 連合茨城下館地区協議会の 「列島グリーンキャンペーン」

筑西市内の様々な産業で働く仲間の皆さまと、桜やコスモス、鮭の遡上など観光スポットでもある五行川のほとりや公園内の清掃活動を行いました。この日はちくせい花火大会の開催日でもあり、きれいになった河川の土手や公園には多くの観光客でにぎわい、筑西の夜空を彩る20001発の花火に大きな歓声が上がりました！

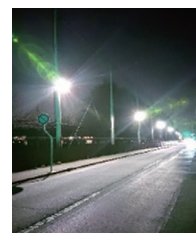


朝の立哨ボランティア活動 おかげさまで今年で12年目に入ります！

今、子ども達と交わす朝の挨拶は私にとって貴重なものとなっております。児童・生徒の成長は早く、小学生だった子ども達がいつの間にか中学生、高校生さらには大学生や社会人となり車を運転する姿に時の早さを感じると共に、子ども達の立派な成長は嬉しいものです。「被害者も加害者も出さない！」活動はこれからも続きます！

地域の 皆さまの 要望

地域の皆さまからの要望は数多くあります。たとえ小さなことでも、そこに住む方にとっては大問題。出来る出来ないは当然ありますが、まずはすぐに対応し報告することが大切です。地域の皆さまが安心・安全な生活が送れるよう、これからでもできる限り要望に応えてまいります。



ちくせい寺子屋 すべての子ども達に学ぶ権利を！

子ども達の家庭の事情は様々です。塾に行けない子や、家庭に勉強する環境が無い子ども達のための無償で学べる学習塾「ちくせい寺子屋」は市の協力もあり、立ち上げてから今年で9年目に入ります。ベテランの先生方が子ども達の学習支援はもちろん、生活上の悩みなど心情に寄り添い、今では子ども達の大切な居場所にもなっております。
「社会に出る時には誰もが同じスタートラインに立てるように！」これからも支援を続けます！

茨城サドベリースクール支援 困難を抱える子ども達の居場所づくり

令和6年の4月より開校するサドベリースクールは、現在日本で30万人を超える社会問題となりつつある不登校児を受け入れるためにB&G財団様からの助成金を基に、筑西市と一般社団法人「茨城サドベリースクール」が運営する全国でも数少ない学校です。不登校児童・生徒本人はもちろん、それを支える親御さんの心情を思えば、スクール運営を継続して支援する必要があります。



地域の 皆さまの 要望



一般質問

※QRコードを読み込んでいただくと、一般質問の動画を見ることができます。

民間フリースクールへの支援を！

令和5年 第1回 3月定例会

三澤	不登校は、児童・生徒本人はもちろん保護者の心労が非常に大きい。 不登校の定義と現在の不登校児童・生徒数は。
教育長	年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いたもので、小学校で74人、中学校153人で合計227人である。
三澤	227名は非常に多いと感じるが、不登校児童・生徒に対する支援体制はできているか。
教育長	家庭訪問、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談のほか、市内4地区に教育支援センターを設置し、自由に来て学習、ゲーム、運動をして過ごしている。
三澤	市内でも子ども達の不登校支援対策としてフリースクールを立ち上げたいとの声があるがどうか。
市長	不登校対策の必要性は理解しており、民間でフリースクールを運営される場合は、市としてもしっかり応援していきたい。

みさわの 視点



現在すでに全国の小中学校の不登校者数が過去最多の約30万に達しており、筑西市でも300人に迫っています。新型コロナによる環境の変化も原因の一つと思われます。しかしすべての子ども達の将来への可能性を潰すことは断じて見過ごせません！そんな中、令和6年4月から筑西市大田地区に不登校や多様な学びを求める子ども達の新たな居場所となる茨城初のサドベリースクール(田中代表理事)が誕生いたします。この「子ども第三の居場所」の今後も全力でサポートしてまいります！

もったいないをありがとくに繋げるために！

令和5年 第2回 6月定例会

三澤	2019年に策定された食品ロス削減の推進に関する法律をふまえて策定された、市の食品ロス削減推進計画の内容は。
市長	令和5年3月に「もったいない。食べ物を捨てない社会へ」をスローガンに市食品ロス削減推進計画を策定し、フードロス対策の一環として、各団体等と様々な協議を行っている。
三澤	フードロス対策にフードドライブ活動が重要と考えるが市の考えは？
部長	本年4月18日に、大田公民館でボランティア団体「みんなの実家モグモグキッチン」によるフードドライブ活動が実施され、非常に有意義な活動であることを再認識した。
三澤	今後、フードドライブ活動を市内の各公民館に広げていく考えはあるのか。
部長	5月開催の公民館長会議で紹介し、情報共有を図った。今後、社会福祉協議会など関係団体とも連携し、推進していく。

みさわの 視点



フードロス対策が叫ばれている昨今、「県西フードパントリー(飯島会長)」として活動をスタートし、現在、企業・団体をはじめ個人の方からも多くの食料品、お米、野菜、日用品をご提供いただけるようになりました。次に私が懸念している問題は、ひとり親世帯や生活に困窮しているご家庭、更にはご高齢者世帯などへも対象を広げ、今本当に支援が必要な方々に確実に手渡しするための情報をいかに把握するか？であり、市や社協と協議しているところです。

※令和6年3月からは、我が筑西市でも本格的にフードドライブ(きずなボックス)の設置がスタートいたします！

「働き方改革」独自の大胆な教職員の業務削減策が必要！

令和5年 第3回 9月定例会

三澤	文科省による教職員の勤務実態調査が6年ぶりに行われたが、本市の小中学校の時間外在校時間が45時間を超えた教職員の人数と割合は？
教育長	1ヶ月平均で小学校は61.8人、中学校は100.9人。割合では、小学校は15.5%、中学校が約50.5%であり減少傾向にある。
三澤	教職員の持ち帰り仕事の人数や内容、時間について把握しているか。
教育長	校長に許可を受け、帯出記録簿に基づき持ち帰り人数は把握しているが、内容、時間については把握していない。
三澤	新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事も通常開催に戻りつつあり、業務の増加が懸念される。スクラップ・アンド・ビルドの観点から、本市独自の大胆な業務削減策が必要では。
教育長	コロナ禍により、運動会の半日開催など様々な業務・行事の大幅な見直しがされている。ただし子供にとってカットできない部分は大事にしながら慎重に見直しを進めていく。

みさわの 視点



今、教員不足が全国で3,000人を超え、精神疾患他での休職者が初めて6,500人を超える異常事態が起きており、教育環境は非常に深刻な状態で、このままでは益々教職員の業務の負担は増える一方です。
①周囲からの過度な要望や苦情 ②過剰な業務量の増加による長時間労働 ③コロナ禍でのコミュニケーション不足などにより、最も大切な人格の形成時期に寄り添った教育ができなくなり、子ども達の将来に大きな影響を及ぼします。

移動手段の無い交通弱者支援の充実を！

令和5年 第4回 12月定例会

三澤	研修で同った射水市では、免許返納者に公共交通の5年間無料乗車証を発行している。本市においても更なる手厚い支援が必要ではないか。
市長	公共交通の利用者が少ないという観点からも改良は必要に思う。関係部署にも検討を指示をしているところである。
三澤	公共交通を利用することによって外出頻度が増え高齢者の健康増進につながるという話を聞く。公共交通の利用と高齢者の健康についての考えは。
部長	定期的に外出して活動を行った場合の医療費が、行わなかったものに比べて有意に減少していることが報告されており、車よりも、公共交通機関を利用して体を動かす、歩いて歩数が増えるということで、高齢者の健康増進につながると考えている
三澤	路線バスが運行しない交通空白地帯など地域格差をなくす必要がある。交通弱者の方々の自宅からバス停、駅など交通結節点までの足の確保がまず必要であり、いつでもどこでも予約・利用が可能なAIオンデマンド交通は最適と聞いた。このシステムの内容は。
部長	AIオンデマンド交通とは、人工知能を活用し利用予約者に対し最適な配車を行うために車両の手配や運行経路などAI技術を用いて効率的な運営、運行を実現しようとするシステムである。

みさわの 視点



私が考える現存の公共交通の最大限活用法は、例えば公共交通を魚の骨に例えると、大きな幹線系の道路を背骨として、小さな骨を集落につながる細い道路と考えると、公共路線バスは背骨の幹線系の広い道路を主に運行し、AIデマンドタクシーは小さな骨の部分、交通空白地帯を含む集落を細かく運行し、そこから交通結節点となるバス停留所につなぐことにより、自宅～バス停留所～更にそれぞれの最終目的地まで移動できる。AIデマンドタクシーは近距離、高回転で集客を行い、公共路線バスは大きな道のための走行により便数も増え、待ち時間が短くなります。結果、デマンドタクシーもバスも相乗り乗車人数が増え、利便性の向上と運賃の増収につながると考えます。

※令和6年4月からいよいよAIオンデマンド交通が実験的にスタートいたします。このAIシステムは誰でも利用したい時にいつでも予約でき、一番近い乗降場への到着時間も通知されます。広い面積に集落が点在するわが市にはAIオンデマンド交通は、地域間の交通格差を埋め、交通弱者への救世主になりえると思います。

【事務所】筑西市一本松1234-1 TEL・FAX 0296(25)5838
E-mail misawa.338@docomo.ne.jp

【自宅】筑西市玉戸1336-317

Facebook 更新中

三澤 隆一



三澤 隆一

検索